

年頭所感

2007年1月4日

株式会社 トクヤマ

社長 中原 茂明

1. 三カ年計画の二年目となる今年度も、昨年に引続き計画を上回る結果で終われる見通しであり、大変喜ばしく思う。今年度も原料・燃料を中心とした購入品の高騰とそれに伴う製品価格への転嫁に終始した一年だった。幸いにも年度後半からは落ち着きを取り戻しつつあるが、今後の世界情勢や世界経済の動きは予断を許さず、注意深く見守る必要が有る。信頼に基づく顧客との良好な関係の維持に最大限配慮していくことが肝要だと思う。
2. 「企業価値の更なる向上」を謳った三カ年計画も、「量・質・機能・インフラの成長」に向け、いよいよ実行の段階に突入する運びとなった。全部門、グループ全社員とも、多忙を極める年になるものと思われるが、一人一人の持てる力を最大限発揮し、計画を現実のものにしてゆきたい。その際の一番の心配は、皆の心身両面の健康維持である。厳しいお願いとは思いますが、自分の健康は自分で責任を取り、決して無理や自分を酷使しないようにして欲しい。
3. 成長に向け、一步先とまでは言えないが、これまでに手を打ってきたことが功を奏し、攻めの投資に打って出られることになった。過去の「轍」を踏んではいけないが、世界経済の動きは我々が考える以上のスピードで走っている。それに乗り遅れることは許されないものの、いつ何時、流れが変わらないとも限らない。全員が常に神経を張り巡らせ、情勢変化を機敏に捕らえ、軌道修正の必要が有れば、恐れることなく果敢に取り組みたい。
4. また、今年は、長年の懸案であった「当社の情報システムの改革」や、内部統制のための「ひまわり活動」、更には、「CSR活動」等、世間や市場で評価される会社として、為すべき事を実行してゆかなければならない。
5. これらの実現には、グループ会社全員の努力が求められるが、自助努力で解決出来るものと、その範囲を超えるものも想定される。しかし、それらの難問を乗り越えるのも、我々の英知だと信じている。これまで同様、常に「安全」に気を配り、「危機意識」を失わず、且つ「緊張感」をもって臨んで行くことを全員の合言葉にし、この一年を乗り切りたい。来年は、いよいよ創立 90 周年を迎えることになる。

以上